



桜と菜の花のコントラストが気分をあげる



花 さくらウオーク が景観に色を添える

4月3日(日)、さくらウオークが開催されました。85人の参加者は、11kmのコースと6kmのコースに分かれて福祉センターを出発しました。今年度のさくらウオークは、開催日に天候と桜の開花状況に恵まれました。

参加者は谷田川の桜堤などをウォーキングしながら、桜が咲き誇る町内の景観を楽しみました。歩き終えた多くのかたが「桜がきれいでした素晴らしい」と話していました。

三塁ランナーをホームにかえす



熱戦が続く 第7回板倉町春季野球大会

4月3日(日)、10日(日)に、第7回板倉町春季野球大会が渡良瀬グラウンドで開催され、11チームが出場。どの試合も熱戦となり、特に大会2日目の準決勝2試合と決勝戦は、すべて延長戦にもつれる展開となりました。この熱戦を制したのは、Advanceでした。来る7月に開催される板倉杯争奪町民野球大会は、第50回目を迎えます。この記念大会の頂点に立つのはどのチームでしょうか。

平地にある三県境 栃木市・板倉町・加須市三県境調印式

3月31日(木)、栃木市・板倉町・加須市三県境調印式が行われました。調印式では栗原町長(群馬県)、鈴木栃木市長(栃木県)、大橋加須市長(埼玉県)が三県の境界を確認する行政区域境界確認書にそれぞれ署名しました。

栗原町長は「一過性のイベントで終わらないように、三県境の歴史的背景なども踏まえ、群馬県の東の玄関口として積極的にPRしていきます」と話しました。



境界点を指さす(左から)大橋加須市長、栗原町長、鈴木栃木市長

生きる力を養う サバイバルキャンプ

3月26日(土)、27日(日)2日間にわたってサバイバルキャンプが開催されました。

サバイバルキャンプにはプログラムやスケジュールはなく、大人が手を貸さない、携帯電話などの電子機器は持ち込まないという決まり以外はルールも特にありません。参加した子どもたちは苦勞をしながらも、テントの設営、食器づくり、火おこし、料理などを協力して行いました。



米を炊くために苦勞して起こした火を消さないように

担任の先生から名前を呼ばれて元気に立ち上がる新一年生



期待を胸に 小・中学校入学式

4月7日(木)、町内の小・中学校で入学式が行われました。今年度は小学校に131人(東小53人、西小40人、南小17人、北小21人)中学校に132人の新一年生が期待を胸に入学しました。入学式の後、保護者と一緒に教室に移動した新一年生の元気にあざつする声が響き、担任の先生の話聞き逃すまいとする一生懸命な姿が印象的でした。

やや緊張した面持ちで初めての教室に入った新入生



初めて着る制服に身を包み中学校の入学式に臨む



新入生を代表して誓いの言葉を述べた柝本隼登さん



広い体育館に名前を呼ばれた返事が響き渡る